



米子駐屯地三心の庭



よなば

第610号
令和5年1月発行
電子版第67号

「地域と共に」

年頭の挨拶

第八普通科連隊長兼米子駐屯地司令

一等陸佐 堀田 朗伸



新年明けましておめでとうございます。

隊員諸官及びご家族の皆様、平素からご支援・ご協力をいただいている青砥協力会長はじめ協力諸団体の皆様、駐屯地近隣の住民の皆様におかれましては、令和五年のよき新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年の我が駐屯地の活動を振り返りますと、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受けた一年でありましたが、波はあるものの感染者数の減少や、重症化の低下等による制限の緩和もあり、一昨年よりは充実した活動を実施することができました。成人行事は来賓をお迎えして、新隊員入隊式、修了式は来賓及びご家族をお迎えし、また、三十一周年振りに実施した部隊集合教育レンジャーの帰還式も来賓及びご家族をお招きして盛大に実施することができました。サマーフェスタは部内の感染拡大により一般開放まで至りませんでした。桜の開花に伴う春の一般開放、駐屯地記念式典等の各種行事は、盛大に実施することができました。地域と共にある駐屯地として駐屯地近隣の皆様との繋がりを持ったことは、喜びとするところです。本年は、更にこれまでコロナの影響で諦めざるを得なかった地域の皆様との結びつきを強めていきたいと思います。

世界に目を転じると昨年二月二十四日以来のロシアによるウクライナへの理不尽な侵略は現段階も継続されており、西側供与の情報や兵器によるウクライナ軍の善戦は、あるもののウクライナ国民は極寒の中で厳しい生活を強いられている状況です。中国は台湾の統一に關しては武力の行使も辞さずとの姿勢を改めて表明し、北朝鮮は今年に入つてミサイル発射を三十数回繰り返しています。このような状況の中で、十二月に政府により国家安全保障戦略、国家防衛戦略及び防衛力整備計画の戦略三文書が改定されました。これらを根拠に、報道でもご案内の通り、今後我が国の防衛力は抜本的に強化されることとなり、駐屯地の老朽化した各施設も充実されるものと思われまふ。我々としては、有形の戦闘力の充実に合わせて、部隊の団結、規律、指揮及び訓練練度等無形の戦闘力の充実を図つていかなければならないと改めて認識したところです。

昨年中は、このような情勢の中において、あつてはならない「いざ」という事態が生じた場合に備えて、平素の任務である「訓練・演習」を始めとした部隊の諸活動に取り組んでまいりました。訓練面では、第一次旅団訓練検閲(受閲部隊)、第二次旅団訓練検閲(旅団先遣部隊)、第三次旅団訓練検閲(對抗部隊)、令和四年度旅団演習等に参加するとともに連隊が計画する各種演習を実施して、各中隊長を始めとした各指揮官及び隊員各位の努力により実りの多い成果を収めることができました。特に今年は、小隊以下の戦技能力の向上に重視して取り組み、それは各旅団訓練検閲の場において四六連隊、一七連隊撃破という形で大きな成果を残すことができました。連隊独自で実施したレンジャー教育では主任教官以下の努力と学生の不屈の敢闘精神により十五名の新たなレンジャーを誕生させることができました。運用面では、鳥インフルエンザに伴う災害派遣要請を受けて現地で活動し早期収束に寄与しました。駐屯地及び連隊



新年のご挨拶

米子駐屯地隊協力会

会長 青砥 隆志

としては、いつ如何なる任務をいただいても出動できる体制・態勢を整えておりました。本年は、駐屯地及び連隊として、昨年と同様に日本を取り巻く戦略環境を正しく理解して、平素の任務である「訓練・演習」を主軸に更に力を蓄えていきたいと考えております。今年は昨年に引き続き、十月上旬に連隊訓練検閲を受閲することとなり、連隊長以下一丸となつて、昨年に引き続き敵の早期撃破による任務の完遂に努めます。また、四月から七月にかけてレンジャー教育も実施する予定です。機を見つけて激励をお願いするとともに七月のレンジャー学生帰還式の際は盛大に出迎えをお願いしたいと思ひます。運用面においては、昨今の

情勢を踏まえまして、いつ如何なる任務を与えられようとも迅速かつ柔軟に対応できる体制・態勢を整えていきたいと思います。また、駐屯地としては、新型コロナウイルス感染症の終息を期待しつつ、春の一般開放、サマーフェスタ、駐屯地記念行事は従来通りのコロナ以前の要領で皆様をお迎えして盛大に実施できることを祈念しております。

今年も隊員諸官の益々の活躍と飛躍及び隊員ご家族、協力諸団体、駐屯地近隣住民の皆様のご多幸を祈念申し上げますとともに、引き続き変わらぬご支援・ご協力をお願い申し上げます。年頭の挨拶と致します。

隊員ならびにご家族の皆様、明けましておめでとうございます。新しい年を迎え、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。米子駐屯地は、本年三月に着任二年を迎えられる堀田司令をはじめ、歴代駐屯地司令のもと、厳しい訓練を通じて精強な部隊を築き上げることに尽力され、国民の生命と安全を守るという崇高な任務を遂行されていることに深く敬意を表します。さて、旧年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症防止を図りながら、九月に米子駐屯地創設七十二周年記念行事が二年振りに開催され、一般開放も行ったところ、約三、七〇〇名の来場者を迎えることができ、盛況となりました。また、部隊におかれましては、

いま、その一歩を踏み出すとき

JAPAN PRIDE

自衛官募集 詳しくは自衛隊鳥取地方協力本部まで
TEL: 0857-23-2251 または 鳥取PCO 検索

遣 派 害 災

鳥取市鳥インフルに

伴う派災害遣

令和四年十月三十日、鳥取県鳥取市に所在する養鶏場において鳥インフルエンザの疑いが発生し、第八普通科連隊長（等陸佐堀田 朗伸）は、十二月一日五時に鳥取県知事から殺処分等の支援に係る災害派遣要請を受け、速やかに第三科長以下連隊本部を鳥取県庁へ派遣、速やかに情報を取集させるとともに自ら県庁へ前進し本派遣の指揮を開始した。

緊急性の高い二個鶏舎の合計四万羽殺処分の要請を受け、主力到着後速やかに現地へ前進し活動を開始した。

翌日七時四十八分頃、第八普通科連隊が要請を受けた約四万羽の殺処分が完了し、じ後は自治体のみで可能となったことから、第八普通科連隊長は鳥取県知事から災害派遣撤収要請を受け、活動を終了した。活動については約二百三十名の隊員を派遣し、二十四時間態勢で殺処分を行った。その後、活動を終了した第八普通科連隊長は鳥取県知事に派遣終了の報告を行い、知事からの感謝の言葉を受け鳥取市鳥インフルに伴う災害派遣活動を終了した。

今後も第八普通科連隊は地域からより信頼される部隊を目指すべく精進していく。



活動状況



活動状況



鳥取県知事に終了報告をする連隊長

連隊車両無事故表彰

第八普通科連隊（二等陸佐堀田 朗伸）は十二月二十日、防衛省 陸上幕僚監部（東京都新宿区）において連隊車両無事故表彰を陸上幕僚長 陸将 吉田 圭秀 から受賞した。

この表彰は陸上自衛隊の車両を運行する上で、長期にわたり無事故走行を達成した部隊を表彰するものであり、連隊は平成三十年四月から無事故走行を続け、無事故走行距離 四百萬キロを達成しこの度表彰された。

連隊は日頃から特に官用車における安全運行を徹底し、車両運行時には安全に関する教育や経路の確認、季節等における特性などを教育しドライバーのみならず車長・助手にも徹底をして未然の事故防止に日々努めている。

連隊は今後も車両のみならず与えられた装備品の機能を最大限発揮できるよう、これからも安全運行や物品愛護に努め連隊の任務に邁進していく。



表彰式



記念撮影

基地通信中隊訓練検閲

駐屯地第三三基地通信中隊は十二月二十二日から二十八日までの間、米子派遣隊長金谷二尉を核心として中部方面総監部が行った方面総監直轄部隊訓練検閲に参加した。

この訓練は中部方面隊に所在するシステム通信群、群隷下の各駐屯地に所在する基地通信中隊がそれぞれの部隊や演習場を拠点として訓練を行い指揮幕僚活動の中で

システム通信障害やサイバー攻撃対処、また現地における不測事態対処として駐屯地内におけるシステム復旧などを訓練した。

また駐屯地には中部方面総監部防衛副長 陸将補 貴島 康一が視察に訪れ訓練の概要を確認された。

駐屯地基地通信中隊は今後も更に訓練を重ねる高みを目指していく。



防衛副長視察



訓練の様子

旅団訓練検閲

令和四年十二月九日から十五日までの間、第八普通科連隊（一等陸佐 堀田 朗伸）は、第十七普通科連（山口）の対抗部隊として旅団訓練検閲に参加した。

連隊は九日から、情報収集部隊を潜入させ、敵情の解明及び警戒部隊の減殺を図りつつ、ドローン等を活用し目標情報を速やかに捕捉し、高価値目標精密な火力発揮を行うとともに、敵部隊の配置を予測して計画から部隊運用を修正した。

この間、連隊主力については下達された命令を全隊員へ周知徹底し、戦術指導及び戦術予行を小隊、分隊規模で繰り返し行い認識を統一し攻撃準備を万全にした。その後、十三日午後には戦機を捉えた連隊長の命令により、第三中隊を前衛中隊として、情報と火力を密接に連携させ、警戒部隊の駆逐を行いつつ前進し引き続き、第一中隊、第二中隊を主力として

一気呵成に敵阻止部隊を撃破し連隊攻撃目標を奪取した。

その後、第一中隊、第二中隊は二三中隊をもつて戦車と協同した普戦協同により、夜間攻撃を行いつつ敵連隊指揮所や段列地域への襲撃を行った。

連隊は、本訓練で得た教訓事項を糧に、更に精強な部隊を目指し練度向上を目指していく。



攻撃前進



警戒する隊員



夜間襲撃



敵陣地への攻撃



餅つきを行う駐屯地司令

駐屯地年末行事



駐屯地司令挨拶



行事の様子

米子駐屯地は十二月二十三日駐屯地年末行事を行った。

昨年に引き続き、二年連続の開催となった年末行事は今年も新型コロナウイルス対策を万全にして多数の来賓の方々の御出席を賜るとともに、隊員家族にもご参加頂き行われた。

今年も駐屯地司令の挨拶により行事が始まり、ご来賓の方々と各中隊による餅つきが行われた。

その後は毎年恒例となった余興や駐屯地の一年を振り返った動画放映、駐屯地曹友会によるお楽しみ抽選会が行われ会場は盛り上がりを見せた。

駐屯地は今年一年で駐屯地記念日行事を始め各種行事に取り組み、「地域と共にある駐屯地」を目指しこれからも歩んでいく。

駐屯地業務隊米子射場外柵整備

米子駐屯地業務隊は令和四年十月三日から十一月十八日までの間、米子射場外柵整備を行った。

米子射場外柵（北側）のフェンスは塩害により錆びており、破損する可能性が高く、射撃を実施する射場への侵入防止等の必要性から取り替え作業を行い、この交換においては、近年整備された米子サイクリングロードが隣接しており、また地質が砂であるためサイクリングロードへの影響を出さない様にしつつ、交換は非常に注意を要する作業であったが、旧外柵の土台を壁として活用する様に工夫して崩落を防ぎつつ作業し安全かつ効率的に作業を行った。

駐屯地業務隊は日光演習場や米子訓練場も含めて引き続き、環境整備を行い、駐屯地隊員が快適に活用でき、かつ周辺住民から安心してもらえる施設の維持を行っていく。



整備後



整備前

災害派遣を慰労・激励

鳥取県隊友会及び鳥取県家族会、そして偕行社鳥取県会長は（文責…鳥取県隊友会事務局局長 西田勝造）に係る災害派遣の激励及び慰労を行った。

まず十二月一日には山本隊友会会長が現地（待機場所の旧湖南中学校体育館）を訪問し、待機中の中隊長・幕僚等を激励した。また鳥取県偕行社会長の内田氏（鳥取県隊友会顧問）は駐屯地を訪問し、副連隊長へ激励品を贈呈した。



偕行社会長の内田様



隊友会・家族会慰労の様子

旅団武装走競技会へ向けて

第八普通科連隊は二月二十七日から二十八日に原村演習場（広島県）で行われる、旅団武装走競技

会に向け練成を行っている。日頃の訓練や演習、課外をを活用して体力練成を行い、各中隊



連隊記録会（12月）



アンダーパスを登る隊員

計画による五キロの記録会や、競技会を想定した小銃・防護マスク等を携行した状態で走る武装走を行い練成を重ねてきた。

真夏の暑い日による記録会や十二月二十日には積雪がある中でこの連隊武装走記録会を行い、二年ぶ



日光演習場で練成する第二中隊（7月）

積雪地部隊としての訓練始まる

第八普通科連隊は毎年一月上旬から二月下旬頃まで積雪地部隊としてスキー訓練を行っている。

また積雪地部隊としては最も西側に位置することからその重要性は極めて高い。

積雪地部隊として各中隊はスキー指導官を中心とし訓練を行いスキー機動やスキーを履いた状態で

の戦闘行動、野外における宿営と練度向上に努めていく。



部隊スキー指導官養成訓練



スキー行進（新補職者訓練）

栄光

国宝松江城マラソン（完走）

連隊本部 一佐 堀田 朗伸
連隊本部 曹長 高田 広幸
本管中隊 三曹 松本 真志
本管中隊 三曹 飯塚 康太
第二中隊 一曹 川端 大介
第三中隊 三曹 福岡 悠太
業務隊 一曹 赤瀬 明美

表彰

部隊集合教育「レンジャー」

旅団長表彰 第四級賞詞 二曹 原 晃
本管中隊 第五級賞詞 二尉 大西 章博
連隊長表彰 第四級賞詞 二曹 高見 修平
第三中隊 第五級賞詞 三曹 八尾 成也
本管中隊 第一中隊 二曹 谷川 嘉彦
連隊訓練検閲 第五級賞詞 三曹 久吉 大悟朗
本管中隊

定年退官

永年の勤務と苦勞様でした。

第二中隊 二等陸尉 中山 一久

十二月十四日付



業務隊 一等陸曹 岸本 弘文

一月二日付



今年度における広報紙「よなご」の切手代を賜り、ありがとうございました。横井 毅様 深川 辰雄様 桑村 優秀様 長田 仁様 松本 守也様の各位

編集後記

少し気が早いように感じますが春の風物詩と言えは桜ですが、皆さんは桜の開花する四〇〇℃の法則と六〇〇℃の法則を存じでしょうか？ そもそも桜の開花するメカニズムは、開花前年の夏には出来ているそうです。それが秋から冬にかけて、成長しないように休眠状態に入つて年を越します。そして十分に低温刺激を受けることで休眠から覚め、これを休眠打破と呼ぶそうです。本来の開花予想は、この休眠打破の日を起算日とし、温度変換日数を積算し地点ごとに定めた日数に達した日を開花日と予想するそうです。

現代では二月一日を休眠打破の起算日と設定し計算するそうです。その計算方法は非常にシンプルであり四〇〇℃の法則は二月一日からの平均気温を毎日足していきその数値が四〇〇℃になったときが開花日だそうです。

また六〇〇℃の法則は同じく二月一日からの最高気温を毎日足していきその数値が六〇〇℃に達したときが桜の開花予想日となるそうです。二つのデータを比較すると六〇〇℃の法則は約二〇年の統計によりピタリ六〇〇℃で開花した日は四回であり年によつては五五〇℃や六二〇℃で開花したりと誤差があるそうです。四〇〇℃の法則はピタリ開花するデータはないものの、過去二〇年間で最大誤差三日以内というデータがあるそうです。

皆さんも二月一日から桜の開花日予想をしてみたいかがでしょうか？

